

共汗でつくる新「京都市動物園構想」中間案に対する
パブリックコメントの実施結果について

募集期間：平成21年8月18日～9月28日(42日間)
意見数：46通 111件

区 分	件 数	意見に基づき 修正するもの	既に盛り込め ているもの	今後検討する もの	反映できな いもの
7つのコンセプト	10	1	7	0	2
展示コンセプト	27	0	16	6	5
ゾーンの施設整備	24	0	19	3	2
活性化の取組	28	0	25	2	1
そ の 他	22	0	6	7	9
合 計	111	1	73	18	19

意見に基づき修正するもの 1件

区 分	番号	意見・提案	対 応
2 「近くて楽しい動物園」	7つのコンセプト	1 「種の保存」に係るコンセプトを追加すべきである。	1-(2)-アにありますように、「種の保存等自然保護への貢献」は現在の動物園の課題として、使命の一つであると考えております。これら課題は本構想を推進する中で解決することを目的に、方法として7つのコンセプトをまとめたものです。しかしながら、本園の基本方向をより一層明確にするため、御指摘を踏まえ、3-(1)イ、魅力ある展示に向けた施設整備の基本方針の中の「繁殖可能な飼育環境の整備」の項の一部を修正致します。 修正前 「(前略)繁殖可能な施設環境の整備を推進する。」 修正後 「(前略)種の保存に向けて繁殖可能な施設環境の整備を推進する。」

既に盛込めているもの

73 件

区分	番号	意見・提案	対応
2 「近くて楽しい動物園」	7つのコンセプト	1 疏水を利用して水と動物のかかわりが観察できる工夫をしてはどうか。	2-(1)-アにありますように、今後も琵琶湖疏水の豊かな水源を活用していく予定であります。
		2 強化ガラスなどで近くで見られる設計にして欲しい。	2-(2)-アにありますように、「近く」で実感できるよう、サル舎、類人猿舎(ゴリラ・チンパンジー)と同様、4-(2)のネコワールド整備事業におきましても、強化ガラスを使用した展示を予定しております。
		3 夜に鳥や虫の声の展示をやってほしい。	2-(2)-アにありますように、環境音としての声の展示だけではなく、五感を刺激し、その姿や行動、能力を実感できる展示を目指してまいります。
		4 「無理して狭さを感じさせない」よりも、狭さを最大限に生かすべきでないか。	2-(2)-アにありますように、整備に当たっては、本園の敷地面積が狭いがゆえに、動物が入園者に「近い」という特色を生かして進めてまいります。なお、現在の「狭さを感じさせない施設レイアウト」とは、動物と入園者が「近い」レイアウトであります。
		5 いつでも動物の鳴き声が聞ける装置を設け、鳴き声の展示をしてはどうか。	2-(2)-アにありますように、五感を刺激し、その姿や行動、能力を実感できる展示を目指しており、展示動物の鳴き声の展示に取り組んでまいります。また、活性化に向けた取組の一つである情報発信の推進として鳴き声についても検討しております。
		6 緊急時の避難場所を指定し、普段から他の注意事項と一緒に放送すればいい。	2-(2)-オにありますように、安全で安心な動物園づくりを進める中で検討してまいります。
		7 多くの人々に親しまれてきた風景としての魅力を明らかにし、京都市動物園の風景という記憶を継承できないか。	本園は、琵琶湖疏水と東山の緑、文化施設が溶け合う岡崎地域の文化ゾーンの一部にあります。今後も7つのコンセプトに基づき、全ての施設利用者に配慮した施設づくりを推進し、緑豊かで快適な空間づくりを進めてまいります。
3 魅力ある展示に向けた施設整備	展示コンセプト	8 他園と違う日本文化を取り入れた京都らしい動物園整備をしてほしい。	3-(1)-エにありますように、京都の豊かな自然を伝え、ヒトと野生動物のかかわりが学べる展示を行ったり、市民との共汗による運営を目指すなど、他園と違う京都らしい整備を目指してまいります。
		9 老朽化している建物、オリをリニューアルしてほしい。	3-(1)-アにありますように、「ヒトと動物」の安全面から見直し、安全面で課題のある施設や老朽化が進んだ施設を優先し改修してまいります。
		10 建物の老朽化や人員について対策を行い、昔の活気を取り戻して欲しい。	3-(1)-アにありますように、老朽化施設の整備を進めるとともに、様々な活性化に向けた取組みを推進してまいります。
		11 赤ちゃんの誕生をもっと増やす工夫をすればどうか。	3-(1)-イにありますように、動物福祉の立場から飼育動物が心身ともに健康で暮らせる繁殖可能な施設環境を整備し、適正な個体数を保てるよう計画的に繁殖に取り組んでまいります。

区分	番号	意見・提案	対応
3 魅力ある展示に向けた施設整備	展示コンセプト	12 獣舎を楕円形にして周回しやすくしてほしい。	3-(2)-アにありますように、動物福祉の立場から、飼育動物が心身ともに健康で暮らせるような飼育環境を提供していくことをコンセプトにしており、種の特性に合った飼育環境を整備してまいります。
		13 標本展示から生態がわかるような展示にすべき	3-(2)にありますように、今後各ゾーンの整備では、5つの展示コンセプトに基づいて行動様式等の観察から正しく動物の生態が理解できる展示を目指してまいります。
		14 展示コンセプトについて分りづらく、実際の施設整備案にどのように反映されているのかも見えづらい。環境教育先進国であるアメリカやドイツなどの取組も参考にして、ベストに近づけて欲しい。	展示コンセプトにつきましては、整備案等の具体化の際に十分な検証を行ってまいります。
		15 動物舎の中に植物を植えるとよい。	3-(1)-イ、3-(2)-アにありますように、動物福祉の立場から、飼育動物が心身ともに健康で暮らせるような飼育環境を提供していくことをコンセプトにしており、種の特性に合った飼育環境を整備してまいります。
		16 閉じ込められたかわいそうと思わないような展示にして欲しい。	
		17 空間を立体的に利用するなどして動物に適切なスペースを確保すべき	
		18 動物の特性に合った飼育環境を提供すべきだ。	
		19 動物のサイズに合った飼育スペースに、獣舎の床をコンクリートにせず自然に近い状態にしてほしい。	
		20 動物をよりよい環境で安全で自由にのびのびさせてほしい。	
		21 動物に適切なスペースを確保すべき。	
		22 1頭だけでは寂しそうなので、複数で飼育してほしい。	
		23 ふれあい広場の動物を増やしてほしい。	
		4 ゾーンテーマに応じた施設整備	ふれあい広場「おとぎの国」整備事業
25 動物と触れ合うことのできる場所を新設すること。	4-(1)-アにありますように、昭和30年に動物とふれあう場所として開設した「おとぎの国」は、昭和53年の改修を経て現在にいたるまでの人気施設ですが、老朽化が著しいため新たに整備致します。新施設では、動物とふれあえる時間帯を増やし、より多くの入園者が動物とのふれあいが可能となる施設としてまいります。		
26 動物とのふれあいを望む。	4-(1)にありますように、「おとぎの国」の整備を行い、動物とふれあえる時間帯を増やすなどの充実で、より多くの入園者が動物とのふれあいが可能となる施設を目指してまいります。		
アフリカの草原整備事業	27 空中回廊を敷設し、上から動物舎が見れないか。		4-(3)-アにありますように、アフリカの草原整備事業において、キリンの目線の高さでの観察を可能とする木道を検討しております。

区分	番号	意見・提案	対応
4 ゾーンテーマに応じた施設整備	京都の森整備事業	28 水鳥スペースを拡張してほしい。	4-(5)にありますように、京都の森整備事業では、鳥類をより近くで観察できるように、通り抜け式バードケージを整備し、カモ類の水中採餌行動も観察できるような施設を整備してまいります。
		29 教育・管理施設整備事業の中に、京都の自然環境に関する情報提供として身近な動物「虫たち」も加えて欲しい。	4-(5)にありますように、京都の森整備事業においては、園内で確認されるホタルの定着と増殖を進めるとともに、水辺環境を整備することで、昆虫についても取り組んでまいります。
		30 小型のげっ歯目等日本産哺乳類を飼育展示してほしい。	4-(5)にありますように京都の森整備事業においては、日本産の哺乳類の飼育展示をする予定であります。なお、小型のげっ歯類につきましては、入手可能で持続的な飼育ができる種を対象としてまいります。
	教育・管理施設整備事業	31 動物関係の図書を充実すること。	4-(7)-アにありますように、教育・管理施設整備において生涯学習施設にふさわしい動物図書館・どうぶつえほん館の整備を予定しております。
		32 絶滅した動物の絵又は写真の展示をして欲しい。	4-(7)にありますように、生涯学習施設にふさわしい展示室を整備してまいります。
		33 課題や施設整備の基本的考え方に京都大学との連携があげられますが、その他の大学に対しても開かれた動物園であって欲しい。	京都大学とは「野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定」を結び京都大学野生動物研究センターの教員が常駐し、動物の「こころの進化」の研究や飼育員をはじめとする動物園職員と協働で、動物が心身ともに健康で暮らせるような飼育環境づくりを進めております。なお、教育機関や大学等との共同研究等連携した取組は別途実施してきたところでありますが、4-(7)にありますように、今後も研究機関と広く連携し、教育及び研究活動を推進してまいります。
		34 地下鉄やバス等の交通に便利な場所に入り口を作してほしい。	4-(8)-ア、5-(4)-アにありますように、正門エントランスは二条通岡崎道角に設け、市バスからの利便向上を目指します。なお、平成21年3月には東出入口を設置し、地下鉄「蹴上駅」からのアクセスを向上させたところです。
	利便施設、休憩エリア整備事業	35 一部獣舎を外部から見えるようにしてほしい。	4-(8)-アにありますように、外から利用できるレストラン等から、園外からも動物の姿が見える等工夫を考えています。
		36 動物を見ながら動物園らしいメニューのランチ等が食べられる食堂や赤ちゃんが休めるプレイルーム、好きな動物前で休憩できるベンチを設置して欲しい。	4-(8)にありますように、利便施設、休憩エリア整備事業の中で御提案の御趣旨を踏まえてまいります。
		37 真夏の木陰や真冬に弁当が食べられる場所、木製遊具などが設置されている場所を作って欲しい。	
		38 もっと広く、ゆったりのんびり散歩ができ、動物がいるような場所にして欲しい。	
		39 ゆったりできるようにして欲しい。	
		40 動物を見ながらゆっくりと食事ができる清楚な空間やテイクアウト、軽食、飲み物を増やしてはどうか。	
41 動物舎の中にあるような子供用の遊具があれば、動物と一緒に遊ぶ感覚が楽しめるがどうか。			

区分	番号	意見・提案	対応	
4 ゾーンテーマに応じた施設整備	42	疏水側から見える外装デザインを魅力的に見せればよい。	4-(8)にありますように、琵琶湖疏水や東山借景と馴染む、楽しく、魅力ある施設整備を進めてまいります。	
5 活性化に向けた取組	教育プログラムの策定	43	エサについての詳しい説明と展示をしてほしい。	5-(2)にありますように、御提案の内容も含め、案内サインの充実を図ってまいります。
		44	コンセプト「いのちが感じられる動物園」に加えて、ゾーンテーマ「Life」に関してぜひ「死」というものを盛り込んで欲しい。生命の環の一部として「死」ととらえられる展示があれば素晴らしい。	5-(2)にありますように、生と死について実感できる機会を提供する等「いのちの教育」を実施してまいります。
		45	大人のための動物園講座があるとよい	5-(2)にありますように、これまで実施してきた様々な教育の取組を体系的に見直し、全ての世代を対象とした環境教育や野生動物の保全に必要な「教育プログラム」を策定してまいります。その中で、大人を対象とした講座につきましても充実してまいります。
		46	類人猿舎の解説パネルを充実して欲しい。	5-(2)にありますように、活性化に向けた取組として教育プログラムの策定を進めてまいります。その中で、類人猿舎だけでなく案内サインの充実を進めてまいります。
		47	動物についての様々な情報を増やしてほしい。	5-(2), 5-(3)-エにありますように、案内の充実や情報発信を推進してまいります。
	市民との共汗でつくる動物園	48	「市民との共汗でつくる動物園」のコンセプトの中に企業との協力を明記すべきである。	5-(3)-アにありますように、「近くて楽しい動物園」の実現に向けた諸制度の中に、企業、法人等の協力を検討しております。今後、構想を推進する中で、様々な協力プログラムに取り組んでまいります。
		49	事業所・企業に協力を求めて、資金を増やす工夫をすべきである。	5-(3)-アにありますように、動物舎の整備を企業・法人等の協力を得ながら行う「動物舎パビリオン」制度の創設を検討しております。また、その他の協賛についても推進してまいります。
		50	動物園好きの高齢者のボランティアを募集してはどうか	5-(3)-アにありますように、市民ボランティアの活動範囲を拡大し、多くの市民との共汗による動物園運営を進めてまいります。
		51	市民や企業に寄付を募り、地元産材の木のベンチを地元の中学生が製作して設置するのがよい。	5-(3)-アにありますように、「近くて楽しい動物園」の実現に向け、広く御寄付をいただける諸制度を検討してまいります。また、4-(8)-アにありますように、手すりやベンチに木材を使い、木のぬくもりが感じられる施設整備を進めてまいります。
		52	動物なんでも相談員を常設すれば、動物に関する疑問や相談にきっちりと対応してもらえ、市民と動物園の関係を深めることが出来る。	5-(3)-アにありますように、動物舎の説明を行う「ガイドボランティア」活動を検討しております。なお、現在も獣医師と飼育員が入園者や市民からの電話での御相談に可能な限りお答えしておりますが、引き続き、皆様から「大好き動物園」と言っていただけよう努力してまいります。
53	イベントの平日・雨天開催はいいことなので、早期実施してほしい。	5-(3)-イにありますように、週末に開催している人気イベントの平日開催や雨の日イベントについて実施の方向で検討してまいります。		

区分	番号	意見・提案	対応
5 活性化に向けた取組	市民との共汗でつくる動物園	54 飼育員が餌を作るところを見せてほしい。	5-(3)-イにありますように、活性化の継続に向けた事業やイベントについて、入園者のニーズを的確に把握し、魅力ある動物園づくりを進めてまいります。
		55 餌やりコーナーを設けてはどうか。	5-(3)-イにありますように、動物を理解していただくための一つの手法として動物にエサをあげるイベントを実施しております。
		56 動物にエサやりをしたい。	
		57 動物に対する理解を深め、動物園をより楽しめるよう、獣医や飼育員の話を聞き、質問できる機会を増して欲しい。	5-(3)-イにありますように、これまでから飼育員の動物ガイドを始め、入園者の皆様と飼育員や獣医師がコミュニケーションを取れるイベントの開催に努めてまいりましたが、皆様のニーズを的確に把握し、魅力ある動物園づくりを進めてまいります。
		58 「夜の動物園」を開催すべきである。	5-(3)-イにありますように、入園者の安全確保と動物福祉の観点から園路整備等を進め、「夜の動物園」開催を検討してまいります。
		59 京都市動物園が新しく生まれ変わるのが楽しみ、これからもイベントに参加したい。	5-(3)-イにありますように、活性化の継続に向けた事業やイベントを推進してまいります。
		60 大人が利用しやすいように週末の開園時間を長くして欲しい。	5-(3)-イにありますように、「夜の動物園」の開催を検討してまいります。
		61 可動式ベンチを増やし寛いで動物を見られるようにすべき	4-(8)-アにありますように、手すりやベンチに木材を使い、木のぬくもりが感じられる施設整備を進めてまいります。
		62 例えば、動物の里親制度や収益が動物園に寄付されるようなグッズ等で楽しく寄付に参加できるようにすべきである。	5-(3)-アにありますように、動物園運営に参画いただくための個人等を対象にした、動物の飼育環境整備の支援を行う「動物サポーター」制度の導入を検討しております。また、5-(4)-イにありますように、平成21年3月に開設したオフィシャルショップで販売するオリジナルグッズの売り上げの一部は、運営するNPO京都市動物園ふぁみりーから寄付していただき、施設整備費等に充てる予定です。
		サービスの向上	63
64	京野菜、京にゆかりの動物メニュー（鹿、猪、鴨、鮎、ナマズ、鮒等）を提供できないか。		5-(4)-イにありますように、園内レストランでは動物園ならではのメニュー、地産地消を取り入れた京都ならではのメニューの提供を考えてまいります。

区分		番号	意見・提案	対応
5 活性化に向けた取組	サービスの向上	65	動物とのふれあいを写真にして販売してはどうか。	5-(4)-イにありますように、入園者の思い出に残るような満足度の高い施設づくりを進めてまいります。
	新たな入園者の開拓	66	法勝寺を紹介し、歴史好きを取込んだらどうか。	5-(5)-ウにありますように、新たな入園者の開拓として、歴史的な史跡をPRしてまいります。
		67	客層と集客の考え方について、ターゲットを絞ってはどうか。また、動物の「におい」が人によっては動物園を嫌う主要因となることもあるので、考慮すべきである。	5-(5)にありますように、これまでは多くの「子ども」を対象に事業やイベントに取り組んでまいりましたが、構想では新たな年代層の集客を目指し、全ての人々に愛される動物園づくりを進めてまいります。なお、動物のにおいにつきましては、動物の「いのち」を感じていただく重要な要素であるとともに、十分考慮すべき要素でもあると考えております。
その他		68	工事のスケジュールを事前に知らせて欲しい。	本案では、ゾーンテーマに応じた施設整備の進行プランを示しておりますが、詳細につきましては年度ごとの計画の進行に合わせ、決定してまいりたいと考えております。
		69	年末年始の休日の初詣の人に対して開園すべきではないか。	御提案のとおり、岡崎周辺は多くの初詣の集客がありますので、平成19年度から1月2日、3日の年始を臨時開園を実施しております。また、「飛び石連休の間の休園日」につきましても開園いたしております。
		70	出来る限り現存する木々の伐採をしないよう配慮されたい。	1-(1)-アにありますように、敷地内の樹木は千本を越え、春の桜、夏の緑陰、秋の紅葉と季節ごとの変化を見せており、風光明媚な環境にあると理解しております。しかしながら、飼育動物が心身ともに健康で暮らせるような飼育環境を提供するための敷地確保のためには、樹木の伐採も必要であると考えております。整備に当たっては、樹木の専門家とも相談し、これまでの特徴を積極的に継承してまいります。
		71	来園者のマナーの悪化を感じるので、学習の機会や看板の設置、スタッフからの注意等により、さりげなくマナー啓発出来るようなマナー教育・向上の場となるべきである。	動物にお菓子をあげるなどの行為は、動物が心身ともに健康で暮らせる環境に悪影響を及ぼすものであります。これまでから啓発してまいりましたが、今後も入園者の皆様の御理解と御協力が得られるよう取り組んでまいります。
		72	目先のことで他の動物園のまねをする必要はない。今の独特の雰囲気や魅力を大切に検討されたい。	御指摘いただいたとおり、本構想では他の動物園の後追いでない、現在の魅力を継承しながら整備を進めていくことを基本に致しております。
		73	意見書も期間限定ではなく、気楽に投書できるようにしてはどうか。	本園では、入園者の皆様からの様々な御意見等をお聞きするために、従来から「御意見箱」を動物図書館内に設置致しております。また、3-(1)-アにありますように、整備計画は一定時期毎に見直しを行い、整備計画の見直しは、市民の意見を取り入れるとしておりますので、パブリックコメント終了後も「御意見箱」に御意見等をお寄せいただければと思います。

今後検討するもの

18 件

区分	番号	意見・提案	対応
3 魅力ある展示に向けた施設整備	展示コンセプト	1 新しい動物(パンダ, サイ, オオアリクイ)を展示してほしい。	3-(1)-イにありますように, これまで飼育していた動物を継承することを基本としながら, 限られた敷地の中で動物ごとに適正なスペースが確保できるように飼育動物種の選定してまいります。将来の展示種については, 入手可能で持続的に飼育管理ができる種を対象に検討してまいります。
		2 オオカミを飼育してほしい。	
		3 様々な動物を飼育して欲しい。	3-(1)-イにありますように, 動物福祉の立場から飼育動物が心身ともに健康で暮らせる繁殖可能な施設環境を整備し, 飼育実績を継承しながら飼育種の選定を行ってまいります。
		4 アシカを増やし, 水をきれいにするなど飼育動物と施設について希望する。	3-(1)-イにありますように, これまで飼育していた動物を継承することを基本としながら, 限られた敷地の中で動物ごとに適正なスペースが確保できるように飼育動物種の選定を行い, 飼育動物が心身ともに健康で暮らせるような種の特性に合った飼育環境を整備してまいります。
		5 3~4階建てにして狭い敷地を補い, 上から動物を眺めたい。	3-(1)-イにありますように, 限られた敷地の中で動物ごとに適正なスペースが確保できるように飼育動物種の選定をすることを基本としております。中高層建築については, 一部を除き法制面やコスト面から困難であります。
		6 日本庭園の手法などを用い, 空間を多様にし各展示の連続性をもたせてはどうか。	3-(2)にありますように, 5つの展示コンセプトで整備を進めてまいります。具体的な手法等につきましては, ゾーンごとの整備の中で検討してまいります。
4 ゾーンテーマに応じた施設整備	7 遊園地をやめてはどうか		平成20年8月30日~10月12日(9日間)において実施した入園者アンケート(3,134人回答)によれば, 遊具について約6割の方が肯定的な御意見でした。また, 平成21年5月10日に実施した親子動物園会議の参加者9組21人の方々も肯定的な御意見でした。これらを踏まえ, 遊戯施設の一部を縮小するとともに, 遊具は中央部に集約し, 他のスペースは動物のために確保いたします。
	8 疎水の噴水が見えるエリアでよく昼食(弁当)を食べた。最近もこのエリアでの休憩を楽しみにしている。「正面エントランス」南側の芝生エリアを減らし, 「サル島」東側の芝生エリアを拡大できないか。		御指摘のとおり, 芝生の広場は, 食事など休憩目的に整備する予定であります。なお, 広場の大きさはゾーンごとの整備計画の中で検討してまいります。

区分		番号	意見・提案	対応
4	ゾーンテーマに 応じた施設整備	その他	9 壁面を液晶にして生息地を映し出せば、環境に合わせた進化を視れるのではないか。	御提案につきましては、維持管理やコストの面等から困難ではありますが、4-(4)-アにありますように、京都大学野生動物研究センターとの連携によって得られる現地の研究現場の様子の展示や、現地で保全活動を行っているNGOやNPOの協力を得てアフリカの野生動物の現状についても紹介できる取組みや生息地の情報をお伝えすることを検討しております。
5	活性化に向けた 取組	市民との 共汗でつく る動物園	10 動物を身近に感じる機会として、有料の餌やり体験ができないか。	5-(3)-イにありますように、動物を理解していただくための一つの手法として動物にエサをあげるイベントを実施しておりますが、有料でのエサやり体験の是非については、今後検討してまいります。
			11 子供向けバースデーパックをつくとよい。	5-(3)-イにありますように、活性化の継続に向けた事業やイベントの推進の中で検討してまいります。
その他			12 京都府立植物園と連携した取組ができないか。	整備構想を推進していく中で、検討してまいります。
			13 美術館の東側の土地を利用したらいい。	美術館の東側スペースは、美術館で年間を通じ多数開催される主催展、企画展、市民作品展等の際に、作品を搬入するための出入口として使用しており、美術館のバックヤードとして必要な場所です。また、池や庭園は、小中学生の写生会として使われるほか、美術館を訪れる人に散策、休憩の場所として長年、親しまれてきたスペースとなっております。今後も、御提案の趣旨を踏まえ、岡崎地域が賑わう有効な利用方法等を検討してまいります。
			14 駐車場の問題は解決すべきである。	本園は、交通の便の良い立地が長所の一つです。市バスや地下鉄の停留所、駅からも大変至便ですので、できるだけ公共交通機関の御利用をお願いしたいと考えております。
			15 チンパンジーの学習の休みを月曜日にできないか。	御意見を参考に検討してまいります。
			16 年間パス購入者に特典を設けるべきである。	年間パスにつきましては、入園料の割引が特典と考えておりますが、御意見を参考に検討してまいります。
			17 バックヤードゾーンは出来る限りガラス張りの建物等で、飼育員の作業の様子が見たいし、インフォメーションで質問できるよう、飼育員を常駐させて欲しい。	バックヤードゾーンは非公開を基本としますが、可能な範囲での公開についても検討いたします。また、飼育員とのコミュニケーションにつきましては、飼育員の動物ガイドを始め、入園者ニーズを的確に把握し、魅力ある動物園づくりを進めてまいります。
18 プリペイドカードなど新しい料金制度を創設すべきでないか。	平成20年7月から年間入園券の販売を開始し、多くの皆様に御利用いただいております。御提案につきましては、検討してまいります。			

反映できないもの

19 件

区分	番号	意見・提案	対応
2 「近くて楽しい動物園」	7つのコンセプト	1 狭い、今の2倍の広さにしてはどうか。	2-(1)-アにありますように、現在地での再整備を基本方針としており、限られた面積を最大限に活用し、限られた敷地の中で、魅力ある展示と、動物を心身ともに健康に飼育できることを目指しております。現在のところ、敷地を2倍の広さにするのは困難であります。
		2 通路は砂利、砂、石畳にし、閉園後は動物を放して運動場にしてはどうか。	2-(2)-イにありますように、段差のない園路を設け、全ての人に優しい動物園を目指してまいります。閉園後に動物を園路に放すことは安全管理上困難であります。
3 魅力ある展示に向けた施設整備	展示コンセプト	3 飼育動物は、草食動物に限定して放牧してほしい。	3-(1)-イにありますように、これまで飼育していた動物を継承することを基本としながら、限られた敷地の中で動物ごとに適正なスペースが確保できるように飼育動物種の選定を行ってまいります。御提案にある草食動物に限定した放牧を行うことは管理上困難であります。
		4 敷地面積の狭い獣舎は、地下も利用すべきである。	
		5 敷地が狭く高さ制限があるので地下を利用してはどうか	3-(1)-イにありますように、限られた敷地の中で動物ごとに適正なスペースが確保できるように飼育動物種の選定をすることを基本としております。地下空間の利用は、法制度やコスト面から困難であります。
		6 動物パフォーマンス(フラミンゴの行列とダンス)をしてほしい。	3-(2)-アにありますように、動物福祉の立場から、飼育動物が心身ともに健康で暮らせるような飼育環境を提供していくことをコンセプトとしております。動物の生態を正しく知っていただくためのガイド等は積極的に実施してまいります。見世物的なパフォーマンスの実施は考えておりません。
		7 サファリランド的に生態(息)地に近い展示を行ってどうか。少しの工夫で動物の生態がよりリアルに体験できる。旭山動物園の真似でも全くかまわない。	2-(2)-アにありますように、本園では「近く」で動物たちの姿や行動、能力を実感し、生息地に思いを馳せる、そうした感性と想像力を育む独創的な展示を目指しており、御指摘のサファリランド的な展示はスペース的にも困難であるため、考えておりません。
4 ゾーンテーマに応じた施設整備	ふれあい広場「おとぎの国」整備事業	8 ロバ、ラクダに乗れるふれあいも大事である。	4-(1)にありますように、動物とのふれあいにつきましては、「おとぎの国」を整備し充実してまいります。なお、現在飼育しているロバは、小型の品種で、高齢であるため乗っていただけません。
	教育・管理施設整備事業	9 半球状の映像館を設け、ここでしかみることができない映像を流がせないか。	限られた予算の中で特殊な映像提供専用施設の設置は困難ですが、情報発信の推進として本園の動物動画コンテンツの開発を検討しております。

区分		番号	意見・提案	対応
5 活性化に向けた取組	市民との共汗でつくる動物園	10	専用の餌が購入できて、動物達に自由に餌やりができれば楽しい。	5-(3)-イにありますように、動物を理解していただくための一つの手法として動物にエサをあげるイベントを実施していますが、動物の健康管理上、自由にエサやりをしていただくことは考えておりません。
その他		11	赤字である京都市に動物園を改修する余裕はない。市民の税金や市職員の負担を増やすのはやめてほしい。	本園は、市民の手によって創設されてから107年目を迎え、施設の老朽化が進み至急の改修が必要な施設が多く、「種の保存」と「環境教育」、「研究」を実践する動物園にふさわしい施設に整備する時期を迎えていますので、市民の皆様の御理解をお願い致します。
		12	疏水を利用して水鳥を呼び、アトラクションとしてえさやりをやってほしい。	疏水だけではなく、園内には四季折々の野鳥が訪れ、これまでも探鳥会等を催しておりますが、生態系への影響と防疫上の観点から餌付をして野鳥を積極的に呼ぶことは考えておりません。
		13	餌台を置いて野生の鳥を呼んでほしい。	園内には四季折々の野鳥が訪れ、これまでも探鳥会等を催しておりますが、生態系への影響と防疫上の観点から餌付をして野鳥を積極的に呼ぶことは考えておりません。
		14	府が鴨川で刈った草を動物の餌にすれば、処分費と餌代の経費の削減になる。	動物のエサは、安全性と品質が重要でありますので、御提案の実現は困難であります。
		15	希少動物のひげ、羽等をオークションを開催し、イベントとして販売してはどうか。	希少動物は、「絶滅の恐れのある野生動植物種の保存に関する法律」によって羽などの派生物についても販売等は禁止されております。実施することは困難であります。
		16	捨て犬・猫を展示し、啓発してはどうか。	動物園では、野生動物を観察いただくことで「こころに癒し」を感じ、「いのちの大切さ」を御理解いただけるよう種の保存や環境教育を実践しております。なお、犬や猫等の愛玩動物につきまちは、「動物の愛護及び管理に関する法律」を所管する部局で啓発活動等を推進しているところであります。動物園や関係部局がそれぞれの取組を充実させることで、御提案の啓発を進めていくことが重要でありますので、本園で捨て犬、捨て猫の展示は考えておりません。
		17	動物のいるオリの周りを走る汽車のような乗り物で動物園を走りたい。	本園は、敷地面積が狭い特長を活かして、全ての人に優しく「歩いて楽しい動物園」を目指してまいりますので、御提案のような乗り物の新設は考えておりません。
		18	動物ショーをしてほしい。	動物の生態を正しく知っていただくためのガイド等は積極的に実施してまいります。動物に負担となる行為は慎重にすべきであると考えております。

区分	番号	意見・提案	対応
その他	19	<p>名称を「京都岡崎動物園」もしくは「ZOOー京都岡崎」など親しみやすいネームにしてはどうか。</p>	<p>「京都市動物園」という名称については、本園が本市と市民の皆様によって創設されたという経過の中で、多くの皆様から親しまれ、愛されている名称であると考えております。なお、動物園をより親しみやすくする取組として、平成20年12月にロゴマーク及びシンボルマークを公募し、新たに使用を始め好評を得ております。今後も引き続き、多くの皆様に親しまれ、愛されますよう御意見をお聞きしながら取り組んでまいります。</p>